

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	航空機整備4 (Aircraft Maintenance 4)		授業コード	C070851
担当教員名	本多 恒雄、担当者未定		科目ナンバリングコード	
配当学年	4	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	航空機整備4は航空機整備3で得た知識を応用して各自のテーマで学習します。このため航空機整備の最終確認講義となり、原則として航空機整備1a, 1b, 2, 3を受講していることが履修条件です。			
受講心得	当授業は県央空港での集中講義となっています。またこれまで航空機整備1～3で学習した知識、および経験をもとに、自分自身で学習テーマを決めて、それに向かって学習します。			
教科書	航空機の基本技術 (日本航空技術協会 編集)			
参考文献及び指定図書	航空機製造メーカー発行のAIRCRAFT MAINTENANCE MANUAL等			
関連科目	航空機整備1a, 1b, 2, 3			

授業の目的	航空機整備を実地に体験する中で、航空機整備に対する心構えや航空整備士としてあるべき姿を考え、社会人として必要な資質を身につけることを目的とします。
授業の概要	整備に於ける故障のを見つけ方、故障発見時の対処方法について学習します。ここでは、航空機整備に必要なマニュアルの種類、内容を学習すると共に、実際のメンテナンスマニュアルを使用して英文を翻訳し、そのシステムの略図の作成、又実際に飛行機の試運転(エンジンラン)を実施し、パイロットのエンジンランと整備のエンジンランの違い、エンジンラン中に起こった不具合に対してメンテナンスマニュアルを使用してトラブルシューティング及び修理を実施します。基本作業ではその基本技術の習得と習熟に力を入れます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：習得テーマと到達目標の設定と学習 各自この授業で学習したいテーマと目標を設定します。テーマ別にグループ分けを行い、教員の指導のもとに教科書、マニュアル、基本作業実習器材、航空機等を使って学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第2週：グループ別教育 グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第3週： グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第4週： グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第5週： グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第6週： グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第7週：	

グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。		実習の場で個々に課題を提起します。
第8週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第9週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第10週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第11週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第12週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第13週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第14週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第15週：	グループ別に授業を実施します。授業内容については航空機整備3で学習した内容をベースにより深く各テーマ別に学習します。	実習の場で個々に課題を提起します。
第16週： 期末試験	これまで学習した内容について各自の理解度を確認するため口頭試問を実施し、不足部については再度解説して、より理解を深めます。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	航空機整備に関心を持ち、授業や課題に果敢に取り組み、柔軟な思考で課題解決法を見出すことができる。
【知識・理解】	航空機整備における自己のテーマに関して基礎理論及び知識を体系的に理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	グループの意見・立場を良く聞き分け理解しながら、課題等の解決にむけ技術的に思考、判断できる。また判断した結果を論理的に表現し相手に明確に伝えることができる。
【思考・判断・創造】	航空機整備の基礎理論及び知識に基づく技術的思考・判断ができ、新しい技術の創造に貢献することができる。

○成績評価基準(合計100点)	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			20点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			20点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	20点		10点
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	①口頭試問による実地試験を通して、自己のテーマの要点を理解しているかどうかを確認します。また実習を通して心構え、態度、社会人としての資質について評価します。 ②授業での取り組み姿勢および態度を客観的に評価します。特に欠席・遅刻・早退した場合は減点となります。